



令和8年3月号

発行所

一般社団法人 岩手県畜産協会

〒020-0605 滝沢市砂辺389番7

☎ 019-694-1300(代)

FAX 019-694-1305

URL: <http://iwate.lin.gr.jp>

E-Mail: info@iwate.lin.gr.jp

印刷 小松総合印刷

題字は達増知事



飼養衛生管理の徹底で大切な家畜を守りましょう

岩手県中央家畜保健衛生所

所長 長谷川 和 弘

令和8年は年明けから、「最強最長寒波」の襲来によりかつてないほどの積雪にみまわれ、畜産関係者におかれましても大変な御苦労をされたことと拝察します。

また、2月21日に金ケ崎町の養鶏農場で発生した高病原性鳥インフルエンザにつきましては、岩手県建設業協会や岩手県トラック協会などの県内関係団体、企業をはじめ、地元自治体や他県の皆様の御協力をいただき防疫措置を講じてきたところであり、心より感謝申し上げます。

さて、家畜衛生をめぐる情勢ですが、周辺諸国では口蹄疫やアフリカ豚熱が継続して発生しており、令和7年10月には台湾で初めてアフリカ豚熱が、令和8年1月には韓国で9か月ぶりに口蹄疫が発生し、国内への侵入リスクが高い状況が続いています。特にアフリカ豚熱は、台湾での発生により東アジアで発生していないのは日本だけとなっています。いずれも病原体を国内に侵入させないための水際対策が極めて重要となっていますが、万が一の国内侵入に備え、飼養衛生管理の徹底等農場段階での対策強化も欠かせないものとなっています。

また、高病原性鳥インフルエンザに目を向けますと、国では、令和6年シーズンの発生を受け、昨年9月に改正した飼養衛生管理基準に基づき、高病原性鳥インフルエンザの発生リスクが高い農林

水産大臣が指定する地域、いわゆる「大臣指定地域」として全国の44地域を昨年12月25日に告示し、本県では、過去に複数の発生があった盛岡地域と、農場が集中している県北地域の計8市町村7地域が

指定されました。大臣指定地域では、地域が一体となって周辺環境におけるウイルス濃度低減のための対策を行うことが重要となっていますが、具体的な対応として、地域内での発生に備え消毒薬の準備や塵埃対策の準備をするとともに、野鳥の状況把握・誘引防止対策が求められています。

このように、家畜伝染病の発生毎に予防対策の強化が繰り返されてきましたが、畜産経営者の皆様には、いずれの対策も御自身の財産を守るためのものと御理解いただき、飼養衛生管理の徹底に取り組んでいただければと存じます。

家畜保健衛生所では、家畜防疫・家畜衛生の推進を通じて畜産経営の安定・発展のお手伝いできればと考えていますので、引き続き家畜保健衛生所業務の推進に御理解と御協力をお願いします。

最後に、紙面をお借りして、今年開催される「全国闘牛サミットin久慈」についてPRさせていただきます。

古くから短角牛との関わりが深い久慈市山形町では、東北で唯一となる闘牛大会を毎年開催して
(次頁へ続く)

畜産春秋

もくじ CONTENTS

畜産春秋.....	1	令和7年度肉用牛指導者養成研修会.....	7
令和7年度岩手県獣医畜産業績発表会.....	2	家畜の保健衛生(164).....	8
令和6年度に実施した経営診断の概要.....	2	畜産の研究(159).....	9
人々の命に通う、まことの農をもとめてー岩手県立農業大学校ー.....	6	乳用牛群検定情報(22).....	10
次世代酪農家の集い2025.....	6	畜産技術情報(113).....	11
令和8年和牛子牛市場「初市式」.....	6	子牛市場及び家畜市場成績.....	12
2026新春和牛講演会.....	7		

【「岩手の畜産」は、バックナンバーも含め協会のホームページでご覧いただけます。】

いますが、私自身も縁あって「いわて平庭高原闘牛会」に所属しています。また、闘牛文化を持つ全国6県の9市町が、年1回の持ち回り方式で全国闘牛サミット協議会の事務局となって記念大会の

開催等を行っており、今年の全国闘牛サミットは、6月14日(土)に久慈市山形町で10年ぶりに開催されます。牛にまつわる文化への理解を深めていただくためにも、ぜひ全国闘牛サミットにお越しください。

令和7年度岩手県獣医畜産業績発表会

令和7年度岩手県獣医畜産業績発表会（岩手県主催）が、令和8年1月22日から23日までの二日間にわたり、盛岡市内で開催されました。この発表会は、県内の獣医・畜産の業務に従事する者が日常業務に関連した調査、試験及び研究等の成果

について発表・討議を行い、広く情報の交換を図ることにより、本県の畜産及び家畜衛生技術の向上に資することを目的とするものです。

一日目の獣医部門には県家畜保健衛生所から15題と岩手県農業共済組合から2題の発表があり、二日目の畜産部門には県立農業大学校から2題、広域振興局から1題、農業改良普及センターから5題の発表がありました。

審査の結果、次の演題が各賞を受賞しました。

表彰名	演 題	発 表 者
岩手県知事賞 (獣医部門)	牛舎環境材料による牛鼻腔内の呼吸器病関連病原体推定方法の設計と野外応用	岩手県中央家畜保健衛生所 主査獣医師 五嶋 祐介
岩手県知事賞 (畜産部門)	シン・耕畜連携 ～水田を基盤とした地域自給飼料生産供給モデルの構築～	一関農業改良普及センター 上席農業普及員 大友 英嗣
岩手県獣医師会長賞	クリプトスポリジウム症を主とする下痢症対策として牛舎消毒を実施した黒毛和種繁殖農場の2例	岩手県農業共済組合 技師 千葉 悠斗
岩手県畜産協会会長賞	TMRセンターの設立・運営支援と利用農家の生産性向上に向けて	二戸農業改良普及センター 技師 依田 龍輔
岩手県畜産技術連盟賞	見える化で、あなたもできる！暖地型飼料作物	中部農業改良普及センター 主任農業普及員 羽田 雅紀
岩手県農業共済組合長賞	黒毛和種子牛における槽間縁および下顎結合の骨折に対しプレート固定と切歯ワイヤー締結を併用し治療した1例	岩手県農業共済組合 技術主査 庄野 春日
奨励賞	子牛の育成前期における腹づくりと発育調査	岩手県立農業大学校 瀬川 徳将

令和6年度に実施した経営診断の概要

岩手県畜産協会が岩手県から受託し行っている、畜産生産基盤育成強化事業の調査結果について紹介します。

酪農部門

1 分析結果の概要

(1) 生産技術指標

生産技術項目（下段は標準偏差）

項 目	令和6年度	令和5年度
例 数	24	21
平均分娩間隔	143か月 ±0.87	140か月 ±0.82

経産牛1頭当たり生乳生産量	9,182kg ±1,489	9,229kg ±1,313
平均乳脂率	3.99% ±0.2	3.98% ±0.16
平均無脂固形分率	8.76% ±0.15	8.74% ±0.14
平均経産牛更新率	22.9% ±11.6	28.1% ±0.13
平均産次	2.4産 ±0.47	2.4産 ±0.45
牛群検定加入比率	91.7%	90.5%

ア 平均分娩間隔

143か月（標準偏差：±0.87か月、中央値14.1か月）で、前年平均から0.3か月長期化しました。

事例全体の中央値は14.1か月で、多くの事例で14か月を上回りました。

くずまき高原牧場
酪農教育ファーム認定牧場（第031002号）
牧場体験承っております
アイスクリーム作り体験、牛・羊の世話、
乳搾り体験、羊の毛刈り体験、しいたけ採取体験



（ご予約・お問い合わせ先）
くずまき交流館 プラトール
TEL. 0195-66-0555
<https://kuzumaki.jp>

乳製品の宅配承っております

かわいい動物たちとふれあえます

平均分娩間隔の最長は17.0か月、最短は12.6か月でした。

イ 経産牛1頭当たり生乳生産量

9,182kg (標準偏差: ±1,489kg、中央値9,140kg) で、前年比較で47kgの減となりました。

1頭あたり生産量8kg以上の事例が多くなり、18事例となりました。

ウ 乳質

平均乳脂率は3.99% (標準偏差: ±0.2%、中央値3.95%)、平均無脂固形分率は8.76% (標準偏差: ±0.15%、中央値8.77%) でした。

年間平均成績では指標値を上回っていましたが、多くの事例で夏場の成分低下が見られており、暑熱ストレスの影響が考えられます。

エ 平均経産牛更新率

経産牛更新率は平均22.9% (標準偏差: ±11.6%、中央値24.5%) で、前年より5.2%下回りました。

事例の多くは更新率15%~35%でしたが、老齢牛の入替に加え、育成牛の出産に伴う更新廃用により、48%を超える事例も見られました。

(2) 財務管理指標

財務管理項目 (下段は標準偏差)

項目	令和6年度	令和5年度
例数	24	21
生乳1kg当たり単価	138.4円 ±5.22	129.9円 ±7.42
生乳1kg当たり生産原価 (家族労働費を除く)	113.7円 ±18.3	109.7円 ±10.8
乳飼比	52.5% ±11.3	54.7% ±9.48
経産牛1頭当たり平均所得額	92千円 ±159千円	98千円 ±131千円
所得率	6.8% ±11.8	7.6% ±10.6
負債比率 (負債/売上高)	47.3% ±45.4	109.5% ±194.6

ア 収益性

(ア) 生乳1kg当たり単価(補給金込みの単価)

生乳1kg当たり単価の平均は、138.4円 (標準偏差 ±5.22、中央値138.7円) で、約8.5円前年より上回りました。

(イ) 生乳1kg当たり生産原価(家族労働費を除く)

家族労働費を除いた生産原価、約113.7円

(標準偏差: ±18.4、中央値111.9円) で、前年より4.0円上回りました。

配合飼料や生産資材の他、電力料金等エネルギー価格の上昇が大きく影響したものと思われます。

(ウ) 乳飼比

事例全体の平均は52.5%で、前年平均より2.2%下回りました (標準偏差 ±11.3、中央値52.1%)。

(エ) 経産牛1頭当たり平均所得額

92千円 (標準偏差: ±159千円、中央値72千円) で、前年を6千円下回りました。

(オ) 所得率

6.8% (標準偏差: ±11.8%、中央値5.4%) で、前年を0.8%下回りました。

イ 安全性 (売上高対負債比率)

調査事例における売上高に対する、負債比率の平均は47.3% (標準偏差: ±45.4、中央値34.4%) で前年との比較で62.2%下回りました。

(3) 労働生産性

経産牛1頭当たりの平均投下労働時間は115.2時間 (標準偏差: ±40.9、中央値118.5時間) で、調査対象者の変更等の影響もあり、前年平均より3.2時間下回りました。

2 まとめ

(1) 低コスト化と収入確保に向けた対応

- ・世界情勢等の影響による円安傾向の長期化で、燃油や電力価格の上昇や配合飼料、資材等生産コストの上昇により、依然として畜産農家の収支に影響を及ぼしています。

- ・厳しい状況の中で収入を確保するため、繁殖成績の向上等、効率的な生産を行う必要があり、暑熱対策等基本的な技術面の改善による事故廃用の低減や、自給飼料をベースとした低コストな飼料給与体系等、収益確保に向けた対応を継続的に行っていく必要があります。

(2) 省力化に向けた対応

- ・規模拡大を行った事例において、家族のみでは労働力が賅えず、雇用したいが応募者が見つからない事例もありました。

- ・後継者への経営移譲をしている事例も増えている中で、これまで両親が労働力を補完していた給餌、哺育育成等の飼養管理や粗飼料生産



母豚2,000頭の一貫経営

・ JGAP認証農場 ・ 良質豚ぶん堆肥の供給
 ・ 徹底した衛生管理と優良系統豚による斉一性の高い高品質豚肉の生産・供給

「みなみよ〜とん株式会社」

岩手町大字川口36-242-3
 TEL. 0195-62-9087 FAX. 0195-62-9373
 ※精肉のご用命は岩手畜流会(食肉専門店)へ

登録番号 L14000002

が、両親の高齢化のため以前のように働けない事例も増えており、今後労働力不足となる懸念が更に大きくなっています。限られた人数で労働力を賄うためには、育成牛の預託牧場の活用やコントラクタ組織の整備等、外部支援組織の活用による労働力の負担軽減を引き続き検討する必要があります。

・また、給餌や哺育、発情発見器等牛舎内作業において、機械で代替できる作業については、機器導入事例や対応する補助事業等の情報提供等、改善に向けたICT技術の活用も検討する必要があります。

・省力化、効率化を図るための各種補助事業や、牛群検定の活用方法など技術面における有益な技術情報について、提供を継続して行っていく必要があります。

肉用牛部門

1 分析結果の概要

(1) 繁殖経営

ア 生産技術項目（下段は標準偏差）

区 分		令和6年度 (19例)	令和5年度 (16例)
成雌1頭当たり子牛生産頭数	頭	0.79 (±0.14)	0.80 (±0.14)
成雌1頭当たり子牛販売頭数	頭	0.65 (±0.21)	0.68 (±0.17)
分娩間隔	か月	13.2 (±1.2)	13.3 (±1.2)
子牛事故率	%	2.3 (±3.0)	1.3 (±2.1)
雌子牛	出荷日齢	299 (±25.2)	283 (±17.0)
	出荷体重	278 (±17.5)	274 (±17.5)
	日齢体重	0.939 (±0.095)	0.968 (±0.070)
去勢子牛	出荷日齢	286 (±10.0)	281 (±9.1)
	出荷体重	308 (±16.9)	314 (±13.4)
	日齢体重	1.077 (±0.068)	1.118 (±0.066)

イ 損益項目（下段は標準偏差）

区 分	令和6年度	令和5年度
子牛販売額(雌・去勢平均)	円 539,177 (±88,749)	609,515 (±64,893)

成雌牛1頭当たり売上高	円	383,284 (±104,818)	416,976 (±102,162)
成雌牛1頭当たり売上原価	円	553,249 (±147,084)	523,948 (±94,919)
成雌牛1頭当たり年間所得	円	17,343 (±169,261)	38,932 (±145,212)
所得率	%	△1.8 (±48.9)	9.3 (±38.1)

(2) 肥育経営

ア 生産技術項目（下段は標準偏差）

区 分		令和6年度 (雌若齢2例、 去勢若齢1例)*	令和5年度 (3例)
雌若齢	肥育期間	日 708	634 (±39)
	肥育終了時日齢	日 959	885 (±23)
	肥育終了時体重	kg 727	673 (±30)
	一日当たりの増体量	kg 0.671	0.623 (±0.047)
去勢若齢	肥育期間	日 657	611 (±28)
	肥育終了時日齢	日 914	889 (±10)
	肥育終了時体重	kg 840	796 (±30)
	一日当たりの増体量	kg 0.884	0.835 (±0.032)

※うち1例は雌肥育出荷のための

イ 損益項目（下段は標準偏差）

区 分		令和6年度	令和5年度
肥育牛出荷1頭当たり売上高	円	1,504,409	1,495,741 (±292,704)
肥育牛出荷1頭当たり売上原価	円	1,460,446	1,371,838 (±237,332)
肥育牛常時1頭当たり年間所得	円	△16,004	174,048 (±154,869)
所得率	%	△0.6	16.3 (±13.9)

2 まとめ

(1) 繁殖経営

飼料、資材価格の高止まり等による生産コストの増加、物価高に伴う買い控えで子牛価格が低迷した等、繁殖経営を取り巻く経営環境が悪化しています。この状況下で所得を確保するためには、生産性の向上と生産コスト削減を一体的に取り組むことが必要です。

発情発見装置や分娩監視装置などのICT機器の活用は、省力化とともに、生産性の向上に

動物の健康は人の健康につながる

●動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。

動物用医薬品・畜産用資材・器材・医療機器・医薬品

MPアグロ株式会社

本社:北海道北広島市大曲工業団地6-2-13 盛岡支店:TEL 019(638)3291

繋がりを、生産コストの低減が期待できます。

また、ゲノム検査や高齢牛更新等の補助・助成等の活用によって牛群の能力向上を図り、産肉能力に優れた子牛を生産することに努め、収入の増を図ることも重要です。

(2) 肥育経営

肥育経営の収益性を向上するためには、生産コストの中で大きな割合を占める、購入飼料費をはじめとする生産コストの低減を図るとともに、AIカメラやセンサーを活用した生産性の向上や消費者ニーズを捉えた肥育方法を検討する必要があります。

子牛価格の下落によりもと畜費は減少傾向であるものの、購入飼料費を含めた売上原価は依然として増加しています。適切な飼養・衛生管理による生産性の向上と合わせたコスト削減といった経営努力が必要となります。

また、牛肉に対する消費者ニーズは、依然として霜降り肉を好む一方、適度な脂肪交雑で値頃感がある牛肉を求めるなど、多様化しています。脂肪交雑に加え、「食味」に関する育種価を考慮したもと牛を導入することや、早期出荷を取り組むなど、消費者ニーズに対応した肥育方法を検討し、差別化を図ることも、収益性向上の手段の一つとなります。

加えて、経営安定、継続のためには、牛マルキン等への加入が重要です。

(3) 飼料生産基盤の強化

肉用牛の生産基盤を強化するためには、購入飼料費の削減が不可欠であり、自給飼料の安定確保に向けた生産基盤の強化が求められます。

農地の利用集積による作業効率化、離農跡地などの積極的な活用による飼料生産基盤の整備、草地更新及び土壌分析による肥培管理による単位収量の増の他に、二毛作の取組みや耕種農家による飼料作物の生産を推進し耕畜連携を図ることにより、自給粗飼料を確保することができます。一方、獣害や夏枯れ等による飼料作物の被害が認められており、それらに対する適切な技術指導が求められます。また、コントラクター、TMRセンター等の外部支援組織及び公共牧場の活用、放牧を併用して省力化するとともに、更なる収益性の向上、生産コストの低

減を目指すことが重要です。

(4) 人材の確保及び担い手の育成

肉用牛経営の従事者は、多くを占める60歳以上の年齢層がリタイアした場合、今後大幅に減少することから、新規就農や第三者等の幅広い人材の確保及び担い手の育成が急務となっています。

関係機関・団体が連携し、就農前後の継続した経営・営農指導を行い、就農者の経営安定を図ることが重要です。

また、生産コストの低減や収益性向上に効果を発揮するキャトルセンター等の活用や、費用対効果を検討した上で、省力化機器の導入を推進するなど、ゆとりある労働環境とすることが、人材の確保にとって重要となります。

(5) 飼養衛生管理の向上

飼養衛生管理基準は、家畜を飼養するにあたって遵守すべき内容が具体的な基準として示されています。基準に沿って適切な衛生管理を行うことは、家畜の伝染病の発生予防・まん延防止だけでなく、家畜の健康と畜産物の安全確保の観点からも重要であり、結果として生産性向上にもつながります。

飼養環境の確認方法として、各団体等が作成した飼養衛生管理基準チェックリストの活用が有効です。確認は改善点を見つける良い機会ととらえ、よりよい畜舎環境等を目指して積極的に取り組むことが重要です。

(6) 集団指導体制の重要性

肉用牛経営の厳しい現状に対応していくためには、個々の生産者の経営力を高めることが不可欠です。そのため、関係機関・団体等が連携し、指導・支援する「集団指導体制」を強化することが重要です。

集団での指導は、それぞれの立場からの指導により、生産者自らが経営を総合的に見直すための基盤を提供でき、多様な課題解決のツールとなります。また、指導者間の情報共有により、課題解決に向けた指導内容の統一化が図られるという利点もあります。

生産者の経営力を向上するため、生産者に対し、経営指導の普及・定着を図るとともに、より実効性の高い集団指導体制となるよう、連携を強化することが重要です。

農畜産物の「安心・安全」を未来につなぐ

 **小田島商事株式会社**

本社 〒025-0311 花巻市卸町66番地 TEL 0198-26-4151

<動物用医薬品・ワクチン・プレミックス・器具機材>

花巻(営) 0198-26-4700 八戸(営) 0178-34-2284

大船渡(営) 0192-26-4740 プレミックス工場 0198-26-4726

横手・青森・古川・山形・酒田・福島・旭川・札幌・帯広・釧路

人々の命に通う、まことの農をもとめて

—岩手県立農業大学校—

標題は本校の教育理念を表す校歌の一節です。本校は県南地域の農業が盛んな金ケ崎町に位置し、校地面積は約300haと全国の農業大学校の中で最大の面積を有しています。校地内には戦前の軍馬補充部時代に植えられた200本を超えるソメイヨシノが、例年4月中旬から下旬頃に満開を迎え、学生、職員をはじめ近隣住民の方々にも親しまれています。

本校の畜産学科は酪農及び肉畜の2つの経営科があり、約30名の学生が勉学に励んでいます。農場では乳牛約40頭、肉牛約40頭を飼養し、牛に直接触れながら、酪農や肉畜経営に必要な技術力や

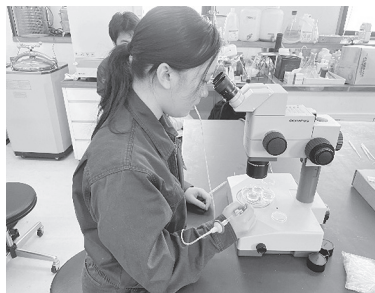


写真 令和6年度の本校でのET講習会の様子

経営管理能力を養う2か年の実践教育を通して、将来の担い手を育てています。

教育の特徴としては、牛群管理システムといったICT技

術、JGAPや農場HACCPなどを取り入れ、より高度な学びを深めているところです。

専攻実習では、学生が当番制で朝夕の搾乳作業や飼料給与等の日々の作業を主体的に担い、飼養管理技術を濃密的に習得します。

2年次には、学びの集大成として学生自らが考えて研究テーマを設定し、牛や広大な圃場を使い、卒業研究に取り組んでいます。

学生には就農、就職に必要な資格や免許の取得を勧めています。特に毎年秋に県の家畜人工授精師講習会と、令和6年度からは冬期に家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植講習会（以下「ET講習会」という。）が本校を会場に開催され、この講習会を受講したほとんどの学生が合格しています。在学中にET講習会を受講できる農業大学校は全国でも少なく、県内外の高校生からも本校を志す動機として大きく注目されています。

最後に、本校の公式Instagramを紹介します。多くの方々に本校をより深く知っていただくため、学校行事や授業の様子などを日々発信していますので、QRコードからアクセスのうえ、フォローをお願いします。

将来の畜産の担い手を志す多くの皆様が、本校での学びに興味を持って頂ければ幸いです。



IWATENOUDAI

次世代酪農家の集い2025

令和7年12月12日、岩手県乳質改善協議会（会長 畠山正全農岩手県本部副本部長）主催の次世代酪農家の集い2025（以下「酪農家の集い」という。）が盛岡市内で開催されました。

最初に全農岩手県本部畜産酪農部酪農課の齋藤課長から、酪農情勢の説明があり、その後7名の若手酪農家から、それぞれの経営内容と飼料給与等の飼養管理、牛群改良と繁殖管理等のポイント



酪農家の集いの様子

のほか、今後の目標等について発表がありました。

総合討議では、能力向上のための育成牛管理や、牛群の改良方法についての質問や活発な意見交換が行われ、参加者にとって非常に有意義な機会となりました。

令和8年和牛子牛市場「初市式」

令和8年1月14日、令和8年新春を迎えての初市式がJA全農いわて中央家畜市場で開催されました。



挨拶する伊藤会長

始めに、市場開設者で全農岩手県本部運営委員会会長である伊藤清孝会長からの挨拶、達増拓也岩手県知事から来賓祝辞があり、挨拶要旨は次のとおり。「本県の家畜市場における上場頭数が減少傾向



祝辞を述べる達増知事

にあり、受胎率の改善などの生産性向上への取組が急務となっている。購買者が安心して購入できるよう、生産者、農協、関係機関と一体となり、和牛子牛生産基盤の拡充を図り、安定した子牛の生産・供給に誠心誠意取り組んでいくので、今後も変わらぬお引き立ての程、よろしくお願ひしたい。

次に、伊藤会長、来賓者、上場番号1番の出品者で鏡開きが行われ、最後に来賓者及び会場に集まった上場者等がリングジュースで乾杯し、閉会となりました。



初市式の様子

初市式後は、県内外からの購買者により初競りが行われ、初日の平均価格(税抜)は、雌597千円(前年比137%)、去勢689千円(同145%)と、雌・去勢ともに前年の平均価格を上回り、幸先の良いスタートとなりました。

2026新春和牛講演会

令和8年1月23日、新岩手農業協同組合、いわて和牛中央育種組合、新岩手農業協同組合管内の7つの和牛改良組合の共催により、2026新春和牛講演会が盛岡市内で開催されました。

講演会では、北海道当別町の出雲畜産技術士事務所の出雲将之代表から、「和牛肥育の展望と飼養管理」と題して講演があり、肥育経営においては、枝肉重量確保のため、肝機能維持やルーメン



出雲講師

環境の正常化により、順調に飼料を食べ続けさせること、繁殖経営においては、子牛育成段階で骨格、胃袋の発育に応じた飼料給与が重要であることなどの説明がありました。

農協や関係団体の畜産指導者、生産者が多数出席し、肉の味やロース芯以外の部位(カブリ、モモ抜け等)の肉質向上に効果的な飼料の給与方法等について質問が出るなど、参加者にとって実りの多い講演会でした。

令和7年度肉用牛指導者養成研修会

令和8年2月6日、令和7年度肉用牛指導者養成研修会(岩手県主催)が、滝沢市内で開催されました。



佐々木振興・衛生課長

冒頭、岩手県農林水産部畜産課佐々木振興・衛生課長からの挨拶要旨は次のとおり。「和牛子牛市場の平均価格は、全国的な頭数不足の影響から、高値で推移している。一方、飼料価格等の高止まりにより、和牛繁殖農家は依然として厳しい経営環境に置かれている。経営安定に向けて分娩間隔の短縮や子牛を高値で販売するには、良好な発育を確保する飼養管理が重要であり、本研修会は、飼

養管理の重要性を改めて理解し、経営改善を図ることを目的としている。日頃の飼養管理を振り返り、新たな気づきを得る機会になるとともに、優良子牛の生産につながることを期待している。」



大津講師

その後、全国農業協同組合連合会岩手県本部の大津専任部長から「分娩間隔短縮及び子牛発育向上に向けた基本的な技術について」と題して講演があり、繁殖成績を改善するためには、発情観察と記録

が重要であること、繁殖雌牛及び子牛の飼料給与のポイント等について説明がありました。県内の生産者や、農協、関係団体の畜産指導担当者が多く聴講し、分娩後の授精の目安や分娩間隔を短縮する取組について質問や意見が出るなど、熱心に耳を傾けていました。

- 共進会用 馬・乳牛 } 用頭緒手綱・馬衣・乳牛用新型牛衣・ ●牛馬手入用毛ブラシ
- 肉牛 } 肉牛用牛衣
- 普通乗鞍・ウエスタン鞍・ポニー用鞍等乗馬具・鞍馬具一式・畜犬具
- 電気工事用革ケース・カバン・スック製袋カバン・リュックサックバンド・安全帯
- せんてい鉄ケース他造園工具ケース類 ●その他特別御注文のカバン等承っております

創業110年品質第一手造りの店

岩手県指定店 **塩釜馬具店**

盛岡市大沢川原2丁目2の32 TEL 019-622-5393 (労働福祉会館隣)

家畜の保健衛生 (164)

家畜所有者の皆様へ
～『令和8年定期報告』を期日までに
ご提出願います～

家畜の所有者の皆様は、毎年、家畜の飼養状況、衛生管理状況等を知事に報告する必要があります。

2月1日時点における家畜の飼養状況を報告様式に記入し、提出をお願いします。

なお、家畜の飼養をやめた方は家畜保健衛生所までご一報願います。

1 家畜の種類と提出期限

家畜の種類	提出期限
牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし	4月15日
鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、エミュー、ほろほろ鳥、七面鳥	6月15日

2 報告事項

具体的な報告事項は次のとおりです。

- (1) 基本情報の報告書 (2月1日時点)
 - (2) 飼養衛生管理基準の遵守状況及び遵守するための措置の実施状況
 - (3) 飼養衛生管理基準の添付書類 (農場平面図、消毒設備の設置個所と種類、埋却地の確保状況、部外者立入制限等の有無、畜舎ごとの飼養密度など：前年度と変更がなければ、省略可能)
- ※ 飼養頭羽数が、次のア～エに該当する小規模飼養者は、(2)及び(3)の報告は不要

- ア 牛、水牛、馬：1頭
- イ 鹿、めん羊、山羊、豚、いのしし：6頭未満
- ウ 鶏、あひる、うずら、きじ、ほろほろ鳥、七面鳥：100羽未満
- エ エミュー、だちょう：10羽未満

3 定期報告は電子申請が可能

定期報告は農水産省共通申請サービス(eMAFF)上で行えるようになりました。電子申請を行う場合は、eMAFF IDの取得が必要となります。



eMAFF

また、従来通り、書面での報告も継続されます。

- (1) eMAFF IDの取得
eMAFFの利用にあたっては、eMAFF IDの

取得が必要となります。取得方法については、eMAFFホームページをご参照ください。

ID取得において、「個人認証」が必要となる場面がありますが、家畜保健衛生所では対面での個人認証は実施しておりません。gBizIDエントリーの場合はオンライン認証を行う、または印鑑登録証明書をGビズID運用センターに郵送してBizIDプライムを取得してください。

(2) 農場台帳の登録

eMAFFで定期報告を行うためには、その前に「農場台帳」を登録する必要があります。(1)で取得したID及びパスワードを使用しeMAFFにログイン後、「制度・手続名称から検索」で「農場台帳」を検索し、フォームへ農場情報を入力してください。

(3) 定期報告の提出

農場台帳の登録後、eMAFFの「制度・手続名称から検索」で「定期報告」を検索し、フォームへ入力してください。定期報告の手続きは「農場台帳ごと(畜種ごと)」に必要となります。複数の畜種を飼養している場合や、複数の場所で家畜を飼養している場合は、畜種(農場)毎に登録した農場台帳を元に定期報告の入力をお願いします。

eMAFFによる定期報告の電子申請は、直接管轄の家畜保健衛生所に提出される仕様となっています。申請内容に不備等あった場合、家畜保健衛生所から申請が「差戻し」されることがあります。その場合は、差戻し通知に記載された指示に従い修正の上、再度申請を行って下さい(eMAFFによる定期報告は「申請」で提出完了ではなく、「申請が承諾」された時点で提出完了となります)。

※ eMAFFは、農林水産省が所管する申請サービスであり、eMAFFの仕様に関する全てのことは、家畜保健衛生所で回答することはできません。不明点等については、eMAFF専用のコールセンターにお問合せください。

～電子申請に関する問合せ～

コールセンター：0570-550-410



一般社団法人 家畜改良事業団盛岡種雄牛センター

〒028-4134 岩手県盛岡市下田字柴沢301-5
TEL 019-683-2450 FAX 019-683-1334

家畜改良事業団では、牛凍結精液の他、全国的な評価が高まっている体外受精卵(IVF卵)、発情周期の同調鈍性発情・卵巣停止に効果を発揮するイージーブリード、凍結精液の保存容器(MVE社製)を取扱っております。ご利用についてのお問い合わせ・パンフレットのご請求は、盛岡種雄牛センターまでお願い致します。

畜産の研究 (159)

オーチャードグラス、チモシーの 秋季更新時における播種晩限の 推定

1 背景とねらい

岩手県の草地更新は、2番草収穫後、雑草との競合が少ない8月下旬から9月上旬に行われるのが一般的ですが、温暖化に伴う秋季の高温傾向により、更新時期が後退することが考えられます。

しかし、気温上昇に対応した秋季の更新（播種）時期を明確に示したものはなく、生産者が経験と感覚で草地更新の播種作業を行っているのが現状であり、その年の気温によっては、牧草が越冬できず次年度の収量が確保されないことが予想されます。

そこで、本県の基幹牧草2草種について、播種の晩限時期を推定する試験を行いました。

2 方法

試験及び気象データの測定は、畜産研究所圃場（滝沢市、標高250m）にて実施しました。

供試品種は、オーチャードグラスはポトマック、チモシーはクライマックスとし、播種は9月中旬から11月中旬にかけて概ね2週間毎に行いました（表1）。肥培管理は、播種時に土壤改良資材（炭カル、ようりん）を施用した後、元肥として窒素・リン酸・カリをそれぞれ7・14・7kg/10a施用しました。

調査は11月中旬に出芽状況や初期生育等の越冬前調査を全区同時に行い、また、翌春には融雪後に越冬状況を確認した後、5月の出穂期に1番草調査、7月に2番草調査を行い、草丈、収量等の調査を行いました。なお、播種翌年の肥培管理は、岩手県牧草・飼料作物生産利用指針に基づき実施しました。

3 結果

播種時期が早いほど、越冬前の草丈は長くなる傾向を示しました（データ省略）。表2に1番草の乾物収量と播種後の有効積算温度（日平均気温5℃以上）を示しま

表1 各年度の播種日

	9月中旬	9月下旬	10月中旬	10月下旬	11月中旬
R3播種	R3.9.16	R3.9.30	R3.10.14	R3.10.28	R3.11.14
R4播種	R4.9.14	R4.9.28	R4.10.13	R4.10.27	R4.11.11
R5播種	R5.9.15	R5.9.29	R5.10.11	R5.10.27	R5.11.11

した。翌年度の1番草収量は、オーチャードグラスでは、10月中旬以降の播種で大きく減収しました。また、チモシーは、10月下旬以降の播種で、大きく減収しました。この結果より、1番草収量を確保できる播種後の有効積算温度（日平均気温5℃以上）は、オーチャードグラスでは約250℃以上、チモシーでは約120℃以上と推測されました。

更新翌年4月の萌芽状況を図1に示しました。播種晩限と考えられるオーチャードグラス9月下旬、チモシー10月中旬以降は出芽不良及び枯死のため、牧草のスタンドが確保されませんでした。

図2に播種後から降雪までの最低気温の推移を示しました。オーチャードグラスでは、播種時の日最低気温が5℃以下になると、翌年の1番草収量は減収し、チモシーでは、日最低気温が1から3℃以下になると減収することが分かりました。以上のことから、オーチャードグラス、チモシーの秋季の播種晩限は、有効積算温度と日最低気温により判断でき、オーチャードグラスは9月下旬頃、チモシー

表2 播種後から調査時（11月中旬時）までの5℃以上有効積算温度（℃）と1番草乾物収量（kg/10a）

	9月中旬		9月下旬		10月中旬		10月下旬		11月中旬		
	有効積算温度	1番草収量	有効積算温度	1番草収量	有効積算温度	1番草収量	有効積算温度	1番草収量	有効積算温度	1番草収量	
オーチャード グラス	R3播種	454	349	280	279	124	1	72	1	8	5
	R4播種	437	377	253	237	123	0	54	0	13	0
	R5播種	504	578	300	380	186	4	94	0	0	0
チモシー	R3播種	454	774	280	567	124	244	72	136	8	50
	R4播種	437	676	253	673	123	370	54	21	13	2
	R5播種	504	581	300	562	186	241	94	60	0	-

草種	播種時期			
	9月中旬	9月下旬	10月中旬	10月下旬
オーチャード グラス				
チモシー				

図1 播種翌年4月の萌芽時の状況

液体窒素、凍結精液保管容器を通じて
畜産界にお手伝いをしています。

東邦岩手 株式会社

本 社 岩手県紫波郡矢巾町大字藤沢第10地割136番地 TEL 019 (697) 4151

ホームセンター 盛岡市みたけ2丁目1番45号 TEL 019 (641) 3143

宮古営業所 宮古市松山第6地割30番地1 TEL 0193 (63) 4251

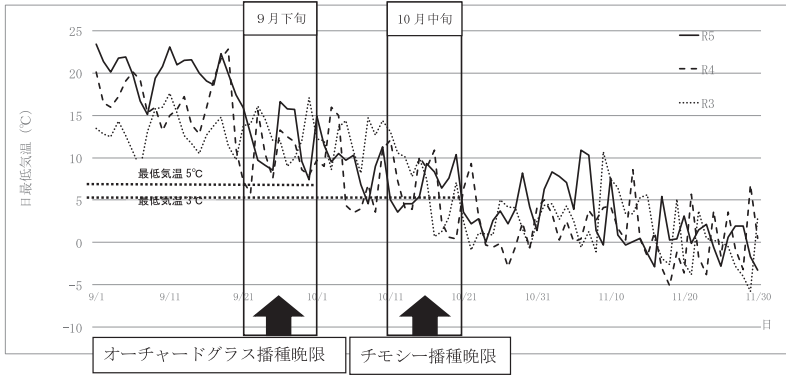


図2 日最低気温の推移

では10月中旬頃と推測されることが示されました。

4 留意事項

(1) この成果はあくまでも播種の晩限を示すもの

(執筆著：岩手県農業研究センター畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室 平久保友美)

です。

1番草の目標収量を得るためには、播種適期に更新を行うことが確実に収量を確保することへの近道です。

(2) 有効積算温度は、基準温度以下の温度は生育に寄与しないという考え方にに基づき、生育に必要な最低温度（この成果で5℃）以上の日の日平均温度を合計した値です。

乳用牛群検定情報 (22)

一般社団法人家畜改良事業団

～ケトン体(BHB)の活用～

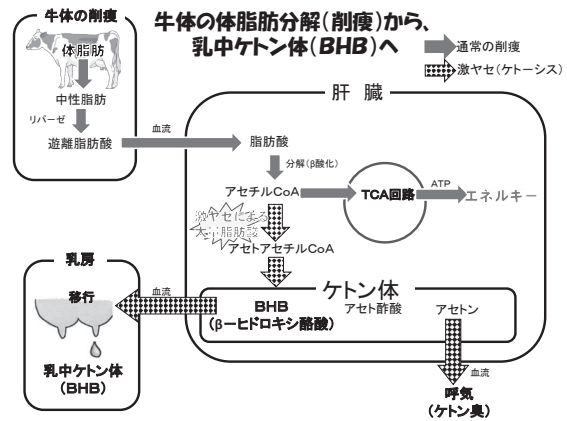
今回はケトン体情報の活用を紹介します。ケトン体という新しい乳成分値は、「ケトン」という言葉でもわかるように、乳牛の代表的な栄養障害である「ケトosis」と密接に関係のあるものです。

1 ケトン体とは

乳用牛は分娩後の急激な泌乳量の増加に対し採食量が伴わず、栄養不足状態となることが知られています。栄養不足であれば、牛体に蓄えられたエネルギーを取り出すために体脂肪が分解され削瘦します。分解された体脂肪は遊離脂肪酸(NEFA)となり、血液中を流れて肝臓に到着します。ここで、通常であればエネルギーが取り出されます。ところが、極端に削瘦すると、遊離脂肪酸が過剰に肝臓に運ばれてくるため、肝臓の処理能力を超えてしまいます。過剰となった遊離脂肪酸はケトン体という物質になります。すなわち、ケトン体が多いと言うことは、栄養不足であることを意味するわけです。そして、ケトン体が極端に増えてしまった場合が、ケトosisと呼ばれる病気となります。

ケトン体は何種類かありますが、牛群検定ではβ-ヒドロキシ酪酸を表示しています。ケトン体

は揮発性が高く、呼吸はもちろん、牛体からも発散されるほどで、牛乳にも移行します。この乳中に移行したケトン体のうちβ-ヒドロキシ酪酸はBHBと呼ばれ、揮発性がアセトン等と比べ比較的安定しているため、牛群検定のサンプルで測定することができます。呼吸や牛体から発散するケトン体は、ケトン臭という酸っぱい果物の腐ったような臭いで、ケトosisの兆候のひとつです。



2 飼養管理への活用

個体のBHBが0.13mmol/L以上を示した場合、ケトosisが疑われます。まずは個体の観察が必要であり、元気がないといった程度であれば糖蜜などを与えます。重篤であれば、当然、獣医師の診断と治療が必要となります。

次に牛群管理ですが、BHBは特に乳価に使われているわけではないので、バルク乳平均には大



新鮮 安心 ヘルシー
岩手県産チキン!!

岩手県チキン協同組合

岩手県盛岡市盛岡駅前北通6-47
TEL 019-624-2870 FAX 019-625-0486

BHB(β/3-ヒドロキシ酪酸)の見方

BHB: 0.13mM/L以上	栄養不足、ケトシスが疑われる(※)
BHB: 0.13mM/L未満	良好

※酪酸発酵サイレージを給与した場合もBHBは上昇します

きな意味はありません。牛群管理としては、ケトシスを疑われる牛の頭数がどれくらいかが、大事なポイントとなります。特に栄養不足となりやすい分娩後60日以内で、頭数の比率で10%以上とな

るようでしたら、牛群としての飼養管理を点検する必要があります。

なお、サイレージを利用している場合に、酪酸発酵したサイレージは、ルーメンで異常発酵するため、食餌性のケトシスを誘発することが知られています。

3 情報の提供

検定農家の方には、繁殖台帳Webシステムにより提供していますので、どうぞご利用ください。

畜産技術情報(113)

生まれた仔牛がぐったりしていたら、蘇生を試みましょう

元気な新生仔牛は、心拍(100回/分以上)、呼吸(規則的で深い)、歯肉の色がピンク色、筋緊張(頻繁に頭を振る)、趾間反射(趾間を広げると素早い反射)があります。これらの反応が小さい場合は、蘇生を試み、獣医師の到着を待ちましょう。

新生仔牛の蘇生のポイント

- 左半身を上にして、前足の付け根を触って心拍を確認する。
- 鼻の中を指やワラで刺激する。
- 鼻、口腔内の粘液等を吸い出す。
- 後頭部に10~15ℓの冷水をかけ、呼吸中枢を刺激する。
- 人工呼吸は、「胸部開閉法」で行う(図1)。
- 全身をゆっくり前後方向に、こする(マッサージ)。

仔牛の意識がない時は、後頭部に10~15リットルの冷水をかけます。呼吸中枢を刺激し、自発的に頭を振ったり、呼吸を始めるきっかけになります。

呼吸の開始には、肺を大きく開くことが必要です。呼吸の開始のために「胸部開閉法」を行います。(仔牛を「逆さに吊るす」方法では、腸などの内臓が肺を圧迫するので呼吸が妨げられる、肺に入った羊水はほとんど出ない、とされています。)

胸部開閉法は、「仔牛の前足をつかみ、横に大きく開く、戻す」を1分間に40~60回行います(図1)。

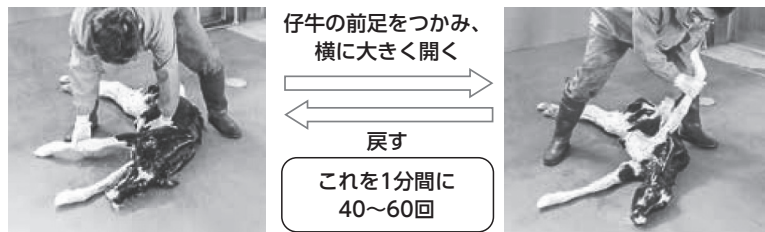


図1 人工呼吸「胸部開閉法」

仔牛用人工呼吸器キットも市販されています(図2)。人工呼吸器は、粘液を吸い出し、呼吸の開始を助けます。

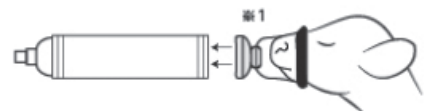


図2 仔牛用人工呼吸器キット

羊水を吐かせたい場合は、台の上につ伏せにし頭だけ下を向かせると、肺を圧迫することなく羊水を吐かせるこ

(公社)中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報

がんばる!畜産!8

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!
映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!
配信の内容: 総集編 思いが繋ぐ畜産の未来/明るい未来へ向け
て畜産DXの取り組み/乳用牛改良の取り組み/地
域ぐるみで国産飼料生産!ほか

(公社)中央畜産会 経営支援部(情報) TEL03-6206-0846



スマートフォンからはこちら
パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産

とができます(図3)。

呼吸が始まったら、伏臥の姿勢にします(図4)。乾いたワラやバスタオルで全身を前後にゆっくりこすり、羊水の拭きとり、マッサージを行います。親子同居の場合は、母牛に舐めさせます(リッキング)。仔牛をマッサージ(リッキング)すると、血行が良くなるため体温維持効果が高まるほか、呼吸が安定し、哺乳意欲が増す効果があります。



図3 羊水を吐かせる方法 図4 伏臥の姿勢



図5 カーフウォーマー (ヒーター付保温器)

また、被毛が乾くと保温効果が格段に高まるため、冬期はヘアードライヤーで乾かしたり、カーフウォーマー(図5)の利用を検討します。

カーフウォーマー(ヒーター付保温器)は市販されています。3~6時間の使用とし、脱水に注意しましょう。使用後は洗浄・消毒するなど、衛生的に使用しましょう。

(参考: N O S A | 北海道 家畜技術情報「子牛を死なせない」)

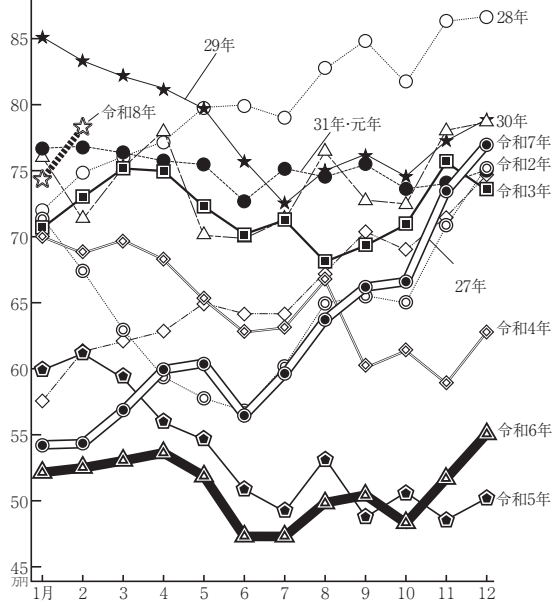
県内黒毛和種子牛市場成績

(全農岩手県本部)

市場区分	性別	令和8年1月			令和8年2月		
		頭数	平均価格	平均体重	頭数	平均価格	平均体重
県南初日 胆江・気仙	雌	83	684,041	289	89	731,883	303
	雄						
	去勢	88	809,663	327	100	827,354	333
	計	171	748,688	308	189	782,397	319
県南2日目 磐井	雌	96	686,240	286	88	741,063	298
	雄						
	去勢	114	826,824	326	100	812,856	331
	計	210	762,557	308	188	779,251	316
中央初日 滝沢・雫石 八幡平・玉山 岩手・葛巻	雌	114	656,922	278	162	718,993	281
	雄						
	去勢	168	758,057	304	174	827,080	310
	計	282	717,173	294	336	774,966	296
中央2日目 紫波・盛岡 花巻・北上 遠野	雌	101	697,444	288	104	721,727	292
	雄						
	去勢	127	790,510	323	124	842,307	325
	計	228	749,283	308	228	787,306	310
中央3日目 宮古・北部 奥中山・久慈	雌	128	685,223	281	112	726,845	292
	雄	1	383,900	245			
	去勢	163	798,215	316	180	832,236	319
	計	292	747,265	300	292	791,812	309
合計	雌	522	681,406	284	555	726,656	292
	雄	1	383,900	245			
	去勢	660	792,978	317	678	829,176	322
	計	1,183	743,401	303	1,234	783,030	308

※ 価格は円(税込み)、体重はkg

子牛価格の推移



県内家畜市場における指定肉用子牛取引実績

公益社団法人岩手県農畜産物価格安定基金協会

区分	令和8年1月		令和8年2月	
	頭数	平均価格	頭数	平均価格
黒毛和種	1,055頭	736,870円	1,067頭	774,877円
褐毛和種	-	-	-	-
日本短角種	49頭	334,198円	-	-
ホルスタイン種 (雌を除く)	-	-	-	-
交雑種・乳	3頭	256,667円	1頭	177,100円

※ 指定肉用子牛とは、肉用子牛生産者補給金制度における、平均売買価格算定の対象となる牛(区分ごとに体重の範囲が定められている。)

※ 平均価格は消費税込み